

第2章 「多摩市子どもの読書活動推進計画」（第一次）の成果と課題

1 第一次計画の取組

平成18年度から5ヵ年計画として、第一次計画を策定し、家庭、学校、地域、図書館において、子どもの読書活動を推進してきました。

(1) 基本目標ごとの取組

ア 読書への動機付け

図書館では全市立小学校2年生を対象に図書館の利用案内を実施しました。また、ボランティアと協働して絵本かたりかけ事業¹やおはなし会（あかちゃん向け、幼児・小学生向け、10代向け、配慮が必要な子ども向け）を実施しました。地域施設では、わらべうたや読み聞かせを日常に取り入れ本に親しむ機会を提供しました。

イ 子どもの読書に対する理解の促進

子どもをとりまく大人が子どもの読書への理解や関心を深めるよう、図書館、地域施設、地域団体がホームページやおたより、おはなし会などをおして広報活動を行いました。

ウ 読書環境の整備

児童書の充実、ブックリストの作成、改訂、関係機関等への配布や、ボランティアと協働し、布の絵本²を作成し、提供しました。地域施設や地域団体が団体貸出³を利用し子どもたちの身近な施設等で本を提供しました。

¹絵本かたりかけ事業(ブックスタート):本とおしてあかちゃんと保護者が楽しいひとときをわかちあうことを応援する運動をブックスタートという。多摩市では、平成4年度から小冊子「赤ちゃんから絵本を」を母子健康手帳の交付にあわせて各家庭に配付し、親子と絵本との出会いを提供してきた。平成14年11月からは図書館、ボランティア、健康推進課が協働し、絵本かたりかけ事業として実施している。

²布の絵本:「布等を使って製作された絵本。遊びを通して、子どもの自発性・積極性を高め、集中力を刺激し、観察力を養い、触覚を刺激し手先の感覚と動きを発達させる。障がいのある子どものためにつくられたが、健常児にとっても、有用である。」
(『健やか親子21 作って遊ぼう布の絵本』渡辺順子著 社団法人日本家族計画協会 2002 より引用)

³団体貸出:図書館が地域団体やグループ等に、図書館資料をまとめて貸し出すこと。またその方法をいう。地域文庫だけでなく、保育園、児童館、学童クラブ、学校等への貸出も盛んに行われている。

エ 関係機関等との協力・連携

学校図書館への支援として、市立図書館の資料と情報の共有や調べ学習への対応を行いました。

オ 人材の育成と協力・連携

読み聞かせ等の講座の開催、職場体験や行事開催時等に、中学生や高校生に、職員及びボランティアが読み聞かせの指導を行いました。

(2) 目標達成のための重点的な取組

ア 家庭、学校、地域全体での子どもの読書活動の推進

多摩市子どもの読書活動推進連絡会、下部組織である市民連絡会議、庁内連絡会議、学校関係者連絡会議の設置、関係機関等が一体となった事業としての子ども読書まつり⁴《ほんともフェスタ》を開催しました。

イ 学校図書館の充実

市立図書館とのネットワークの活用、資料及び情報の共有、調べ学習資料の充実を図りました。

ウ 団体活動の活性化

団体貸出室及び活動室を本館内に設置し、随時貸出や相談に対応しました。

2 第一次計画の成果と課題

第一次計画では、5つの基本目標のもと、82の具体的施策を設け、読書活動を進めてきました。具体的施策についてはおおむね推進ができ、読書の動機付け、蔵書の充実及び活用、関係機関等との連携などについて、成果もでてきているところです。しかし、いくつかの課題もあり、第二次計画を策定するにあたっては、これらの課題を踏まえ取り組む必要があると考えます。

(1) 主な成果

○ 絵本かたりかけ事業からあかちゃん向けおはなし会につながり、参加者が増え、読書への動機付けが促されました。

絵本かたりかけ事業配付率

平成18年度 95% ⇒ 平成22年度 98.5%

⁴子ども読書まつり:子どもの読書推進をテーマとする全市規模の行事。子どもの本の展示や紹介、子ども自身も参加し本やおはなしに親しむことができるような企画の実施をとし、多くの市民の参加や交流の機会とする。

あかちゃん向けおはなし会の実施回数

平成18年度 12回 ⇒ 平成22年度 56回

○ 蔵書の買い替えや蔵書数の増加により学校での調べ学習や、関係施設への団体貸出が促進され、子どもたちが身近な施設で本とふれあうことができました。また、ボランティアと協働し、布の絵本を子どもたちに提供することができました。

団体貸出冊数

平成18年度 21,871冊 ⇒ 平成22年度 24,610冊

児童書所蔵数

平成18年度 192,452冊 ⇒ 平成22年度 214,006冊

布の絵本所蔵数

平成18年度 0冊 ⇒ 平成22年度 187冊

○ 多摩市子どもの読書活動推進連絡会等への関係機関等の参加により、相互の連携が図られました。また、子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の開催により関係機関等が交流するきっかけとなり、より多くの子どもたちが本に親しむ機会を得ることができました。

(2) 主な課題

第一次計画で課題の残った施策（巻末資料6「第一次計画実施状況」）や、第二次計画策定にあたり、現状を把握するために行った「小・中学生アンケート」（巻末資料7）により、取組が不十分だったものは以下のとおりです。

○ 私立保育園・幼稚園への働きかけ

図書館から私立保育園や幼稚園への働きかけが不十分だったので、図書館職員と保育士、教諭が連携をとり、乳幼児期から読書活動を支援していくことが必要です。

○ 配慮が必要な子どもへの支援

障がいのある子ども、日本語を母語としない子ども、何らかの理由で学校に登校していない子ども等に対する取組が不十分だったので、関係課や関係施設と連携し、さまざまな障がいや子どもの状況に対応した読書活動を支援していくことが必要です。

○ 10代の子ども向けサービス

中学生、高校生など10代の子どもに対しては蔵書や情報の提供が不十分だったので、本や図書館を身近に感じることができるよう工夫をしていくことが必要です。